

〈主催〉 京都大学 「モノ学・感覚価値研究会」 〈共催〉 北野天満宮

三月七日から十五日 当宮で「悲とアニマ」展

大震災四年目の十一月には鎮魂の茶会と能舞



東日本大震災の「悲しみ」を 生きる力に……

東日本大震災の「悲しみ」を生きる力に
三月七日から十五日 当宮で「悲とアニマ」展
四年目の十一月には鎮魂茶会と鎮魂能舞

京都大学「モノ学・感覚価値研究会」は、三月七日から十五日まで社務所や神楽殿・茶室・駐車場など当宮境内一帯で「悲とアニマ」モノ学・感覚価値研究会アート分科会展」を開催する。東日本大震災における「悲」をアニマ（靈魂・靈性）に込めることにより生きる力に変えようとの願いを込めており、そうした企画意図に関わる芸術作品を展示するとともに震災四年目に当たる三月十一日には、鎮魂茶会や移動舞台上での鎮魂能舞などの上演を計画している。

「鎮魂茶会」は三月十一日の午後一時から三時まで被災地に対する服喪と再生を祈念して行われる。茶碗は、被災地に二点以上の陶器を寄贈している造形美術家の近藤高弘氏が「命のウツワプロジェクト」において制作したものを着る。

「鎮魂能舞」は、同六時から七時の間、当宮駐車場に移動舞台車を配置し、ライトアップの中、被災地と世界に対する未来の希望を祈念して行われる。移動舞台車は、やなぎみわ氏（現代美術作家・京都造形芸術大学教授）の作品。能舞は、河村博重氏（観世流能楽師・重要無形文化財・京都造形芸術大学客員教授）と本展監修者で神道ソングライターの肩書も持つ鎌田東二氏（京都大学こころの未来研究センター教授）の共演で行われる。観覧は無料だが、雨天の場合は順延される。

は雷神信仰や天神信仰があった。その自然神信仰の上に人神としての菅原道真公への鎮魂と顕彰と讃仰（信仰）が加わった。

つまり菅原道真という「人」が「怨霊」になり、その後「神」になったのは、北野という場所にその土壌と秘密があった。もともとこの土地に息づいていた天神信仰、すなわち雷と稲作豊穰（自然の驚異と恵みの表裏一体）の基盤の上に菅原道真公への思慕と讃嘆と鎮魂が接木されて定着し、強力な北野天神信仰を生み出していったのである。

わたしたちの「悲とアニマ」展は、直接的には東日本大震災を機に、その「悲」を、生死を越えた永遠のいのちに昇華していく「アニマ（靈魂・靈性）」に接続したいという悲願を持っている。この「悲」を、生きる力や靈性「アニマ」に転換する信仰こそが北野天満宮の信仰の本質だと思いがゆえに、わたしたちはこの展覧会を北野天満宮で開催したいと考えた。

開催主催者の京都大学「モノ学・感覚価値研究会」は、二〇〇六年度〜二〇〇九年度日本学術振興会科学研究費助成事業「モノ学の構築―もののあはれから貫流する日本文明のモノ的創造力と感覚価値を検証する」研究会として発足し、現代における日本的感受性の意義や有効性を「モノ学・感覚価値研究」として学問的に追求してきた。「ものあはれ」から「もののけ」までの「モノ」観や美意識の変遷の研究と表現を試み、その過程で二〇〇八年秋から芸術領域のアート分科会が発足し、日本的感受性の芸術的表現を理論や実践で探求し、五年間さまざまな研究・表現活動を積み上げてきて、その集大成として「悲とアニマ」展（展覧会+シンポジウム+パフォーマンス）を開催する。

この「悲とアニマ」展をなぜ北野天満宮で実施させていたかという申請したのか、その企画趣旨を簡単に述べてみたい。



やなぎみわ「日輪の翼」のための移動舞台車 於横浜トリエンナーレ2014 新港ピア会場

昨今、東日本大震災、近畿大水害、各所の台風被害、御嶽山噴火など、国内外で天災も人災も多発している。このような現状の中で、一つの芸術芸能による鎮魂供養の試みとして、一宗一派も宗

「悲とアニマ」展

平成二十七年三月七日（土）〜十五日（日）

【監修】鎌田 東二、【企画】秋丸 知貴

【展示出品者】

大西 宏志 岡田 修二 勝又公仁彦 狩野 智宏

上林 社一郎 坪 文子 松生 一歩 三宅 一樹

山本 健史 渡邊 淳司 丸谷 和史 スライヴン・ギル 他

【鎮魂茶会】

近藤 高弘

【移動舞台車・鎮魂能舞等】

やなぎみわ 河村 博重 鎌田 東二 他

天神信仰と「悲とアニマ」展 開催に寄せて

京都大学こころの未来研究センター教授
鎌田 東二

延暦十三年（西暦七九四）十一月八日、桓武天皇は「山背国」を「山城国」に改名する詔を出し、「平安京」に遷都した。この「平安京」は水の都であり、ものづくりの都であったが、同時に「祈りの都」でもあった。「皇城鎮護」とその「平安」が祈られ、「御霊信仰」も「鎮護」と「平安」には不可欠の信仰であった。

上田正昭京都大学名誉教授は「天神信仰」には中国や朝鮮半島の「天神信仰」と日本古来の「天つ神の信仰」と「菅原道真公の信仰」という三種があり、北野天神信仰にはそれらが重層していることを指摘された。また鎮魂には支配者の鎮魂と民衆の鎮魂の二種があり、支配者の御霊信仰は恐れることであるが、民衆の御霊信仰はその力を自分たちのパワーにして幸せを呼び込むものという対照があることを指摘された。中世には、菅原道真（八四五〜九〇三年）という優れた政治家・文人・学者が「天満大自在天神」とか「太政威徳天」とかの称号を付与された「天神」という「神」に「成神」していく天神信仰形成過程があったが、「天神」という神格の基層をなすのは、北野の地に「火雷神」が祀られていたことであつた。そこに王城守護神、撰録神、学問神などの神格が重層的に付加され織

教の違いも超える、「悲とアニマ」という広大無辺の大悲・大慈への普遍的な祈りと鎮魂を実現し、死者への供養と生の活力としたい。

「悲とアニマ」展における「3・11」開催の「鎮魂茶会」と「鎮魂能舞」は、豊臣秀吉が一五八七年に催した「北野大茶湯」や出雲の阿国が初めて歌舞伎踊を演じたという来歴を念頭に置いたもので、平安京・京都の地から伝統に基づく新たな表現を社会発信しようとするものである。企画趣旨をご理解いただき、ご参加いただきたいと思います。



社務所 大広間・前室（松生歩絵画作品）

鎌田東二（かまたとうじ）先生 略歴



一九五一年徳島県阿南市生まれ。國學院大學文学部哲学科卒、同大学院文学研究科博士課程修了。岡山大学大学院医学総合研究科社会環境生命科学専攻博士課程単位取得満期退学。文学博士（筑波大学）。宗教哲学・民俗学・日本思想史・比較文明学専攻。神道ソングライター。石笛・横笛・法螺貝奏者。現在、京都大学こころの未来研究センター教授。NPO法人東京自由大学理事長。京都伝統文化の森推進協議会会長。身心変容技法研究会代表 (<http://waza-sophia.la.coccan.jp/>)